

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和6年10月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

11月10日（期間外）に、山体の北を震源とする火山性地震が一時的に増加しました。

その他の火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。そのうち女岳^{めだけ}付近では2015年頃まで地熱域の拡大がみられ、その後大きな変化は認められていませんが、中長期的には地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していることから、その推移に留意が必要です。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～7、図8-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

31日から11月1日（期間外）にかけて実施した現地調査では、女岳付近の地熱域は引き続き認められましたが拡大傾向はみられず、また、噴気の勢いは弱く大きな変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図8-②～⑤、図9、図10）

今期間、山体の北が震源と推定される火山性地震がやや多い状態で経過しました。また、11月10日（期間外）にも山体の北で火山性地震が一時的に増加し、日回数は161回（速報値）となりました。

山頂付近では2017年9月以降、そのうち女岳付近では2018年9月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態が継続しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図11、図13）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

○活動評価

秋田駒ヶ岳では、2017年9月以降は山頂付近で火山性地震の発生頻度がやや高く、低周波地震も時折発生するなどしています。そのうち女岳付近で2015年頃まで地熱域の拡大がみられ、その後大きな変化は認められていません。今期間、顕著な地震活動や地殻変動は観測されていませんが、中長期的には地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していることから、その推移に留意が必要です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

今回の火山活動解説資料（令和6年11月分）は令和6年12月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の状況（10月11日）

・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）の可視映像です。

女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

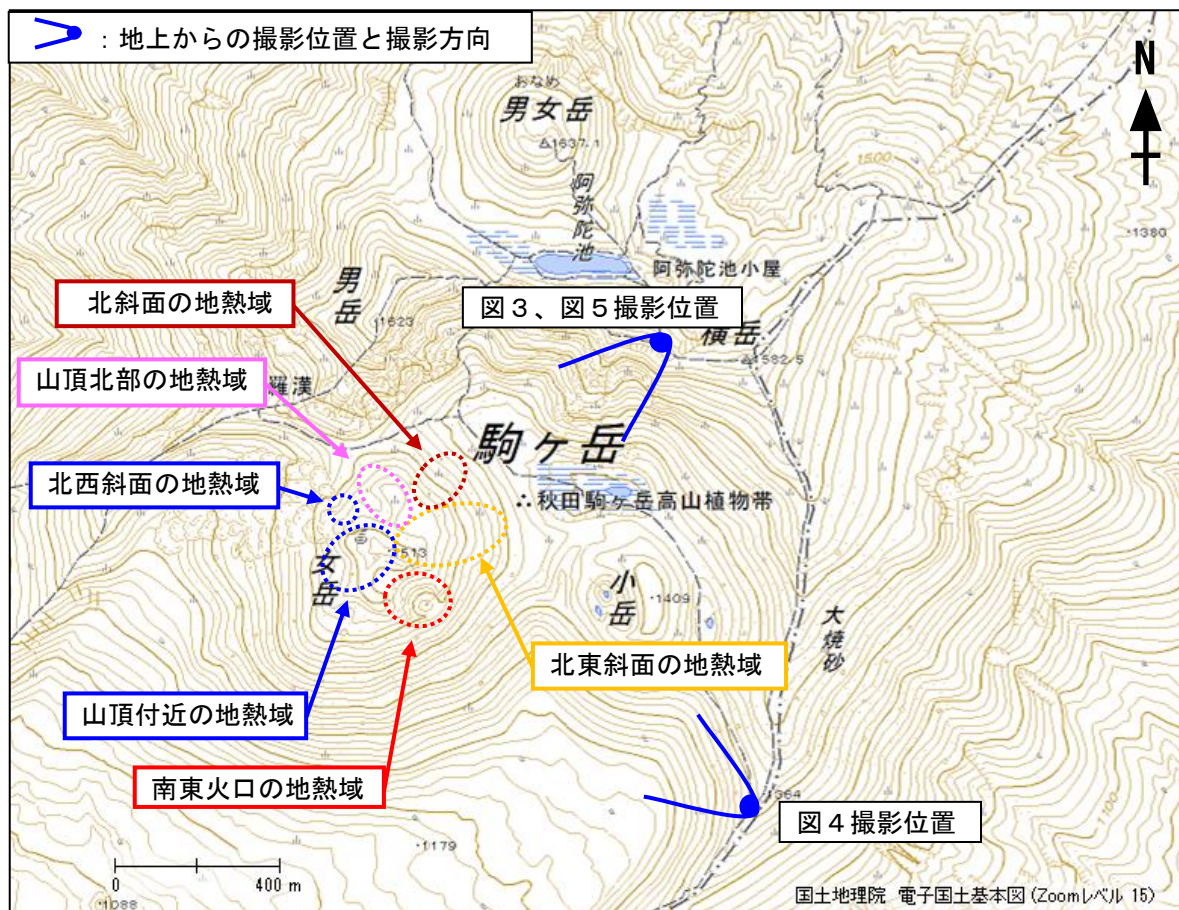


図2 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布並びに写真と地表面温度分布の撮影位置及び撮影方向

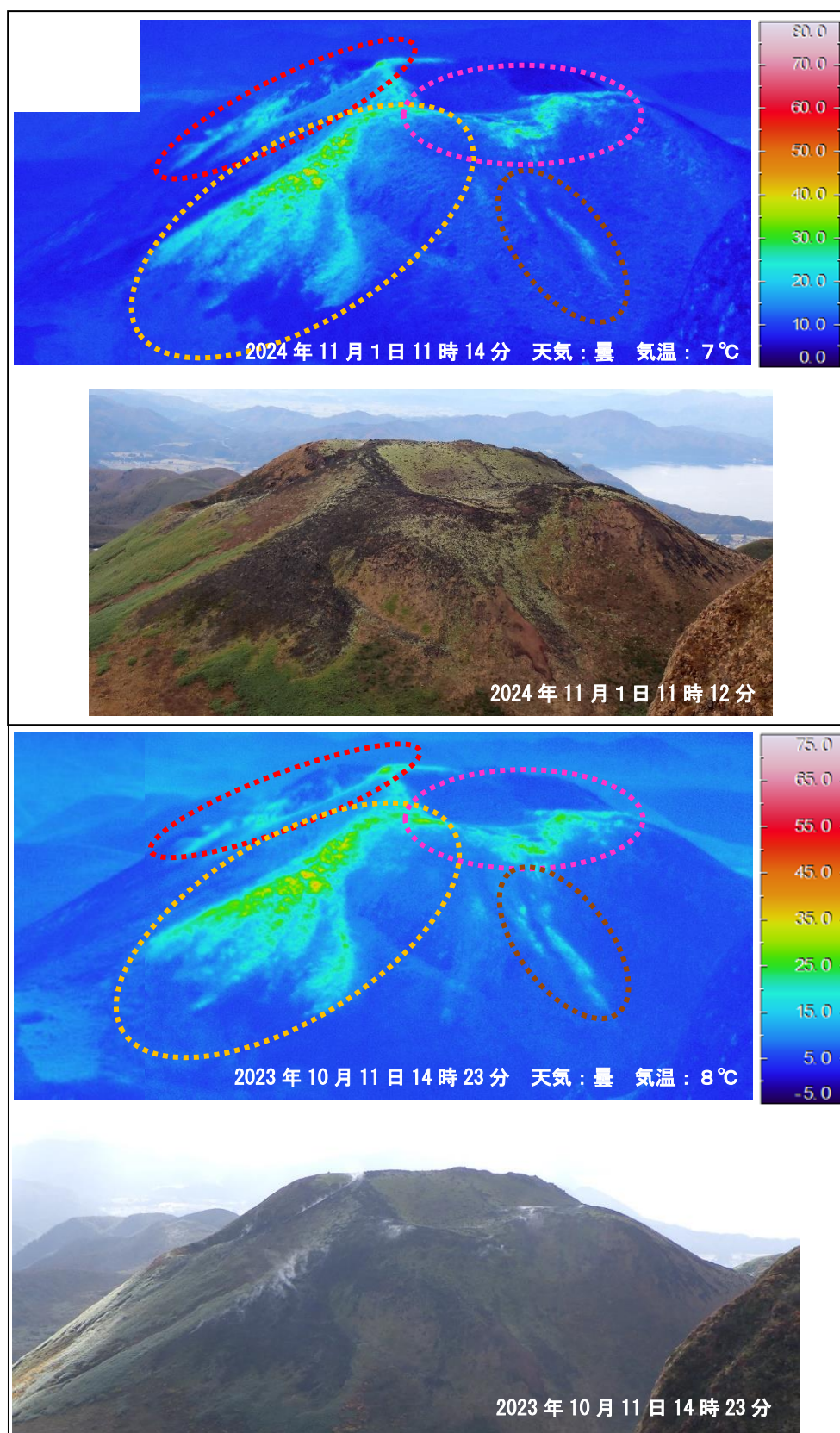


図3 秋田駒ヶ岳 北東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は図2に対応します。

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。破線領域外の地表面温度の高い領域は日射による影響で、地熱域ではありません。

女岳周辺では、前回（2023年10月11日）と比較して噴気・地熱域の状況に大きな変化は認められませんでした。

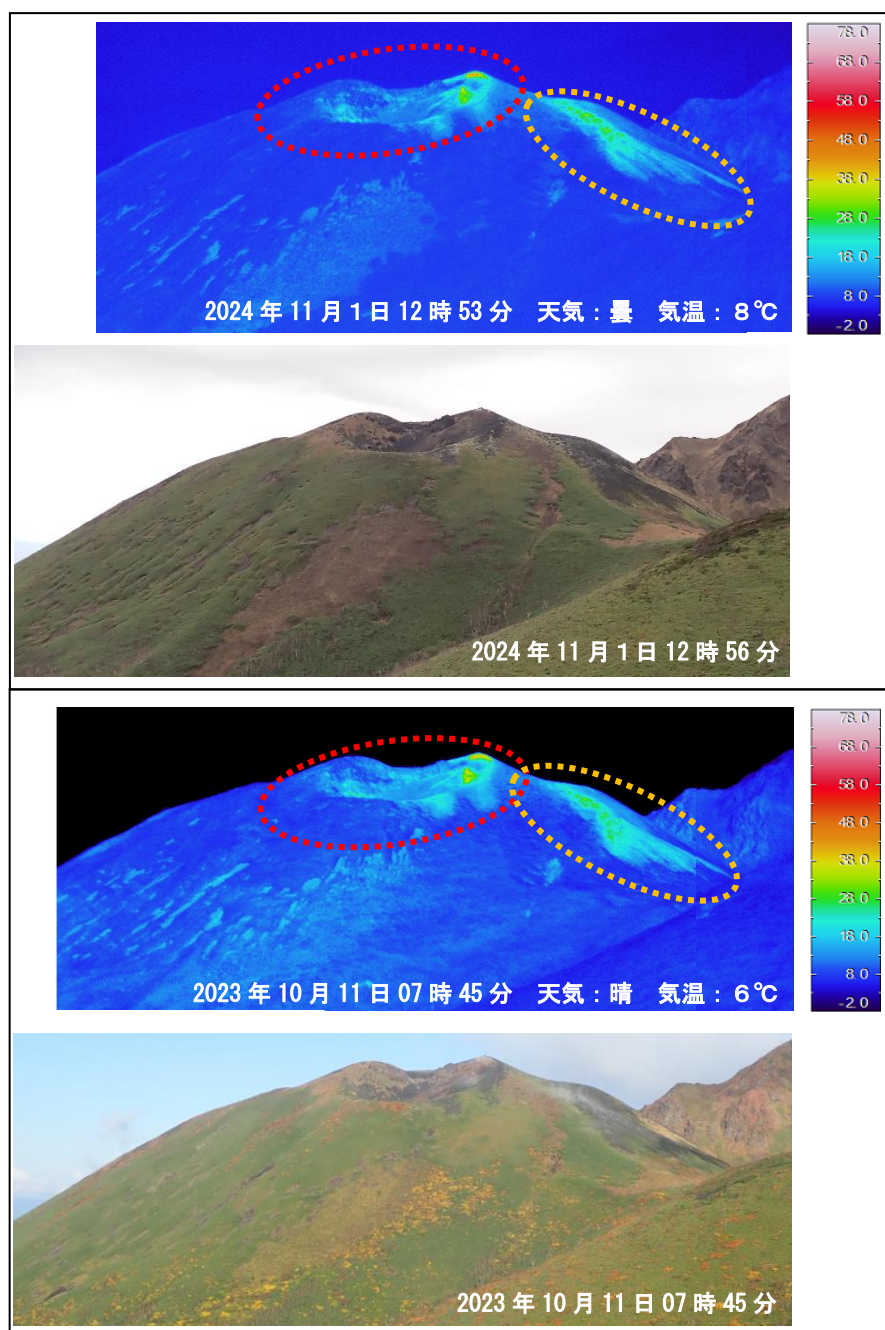


図4 秋田駒ヶ岳 南東方向から撮影した女岳の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は図2に対応します。

※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。破線領域外の地表面温度の高い領域は日射による影響で、地熱域ではありません。

女岳周辺では、前回（2023年10月11日）と比較して噴気・地熱域の状況に大きな変化は認められませんでした。

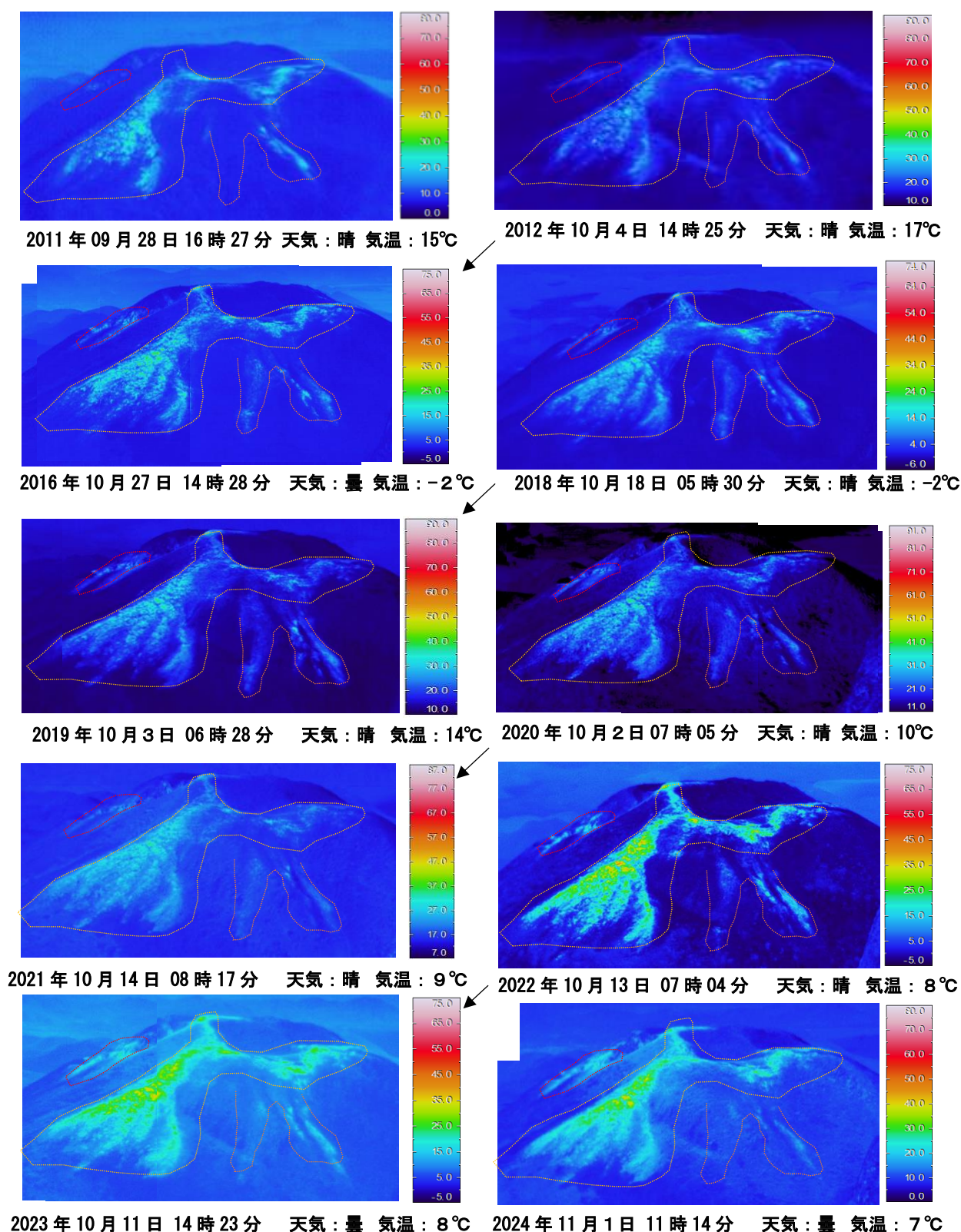


図5 秋田駒ヶ岳 北東方向から撮影した女岳の地表面温度分布の時系列変化
(2011年9月～2024年11月)

※図中の破線は現在の地熱域のおおよその範囲を示しています。

※2022年の観測では、周囲の地温が低いために、地熱域と非地熱域の温度差が大きめに表示されている可能性があり、地熱域の温度やその広がりには大きな変化はありません。

女岳周辺の地熱域は、2009年頃から2015年頃まで拡大が認められ、現在も地熱活動が続いています。

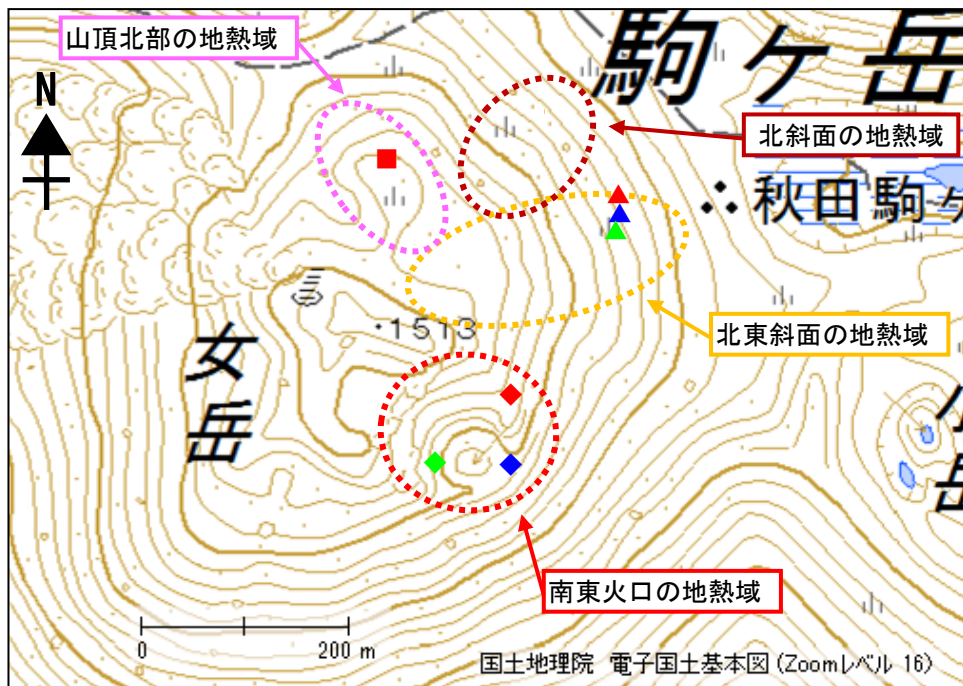


図6 秋田駒ヶ岳 女岳の地中温度測定位置
※図中の■▲◆は測定位置を示し、図7の形と色に対応しています。

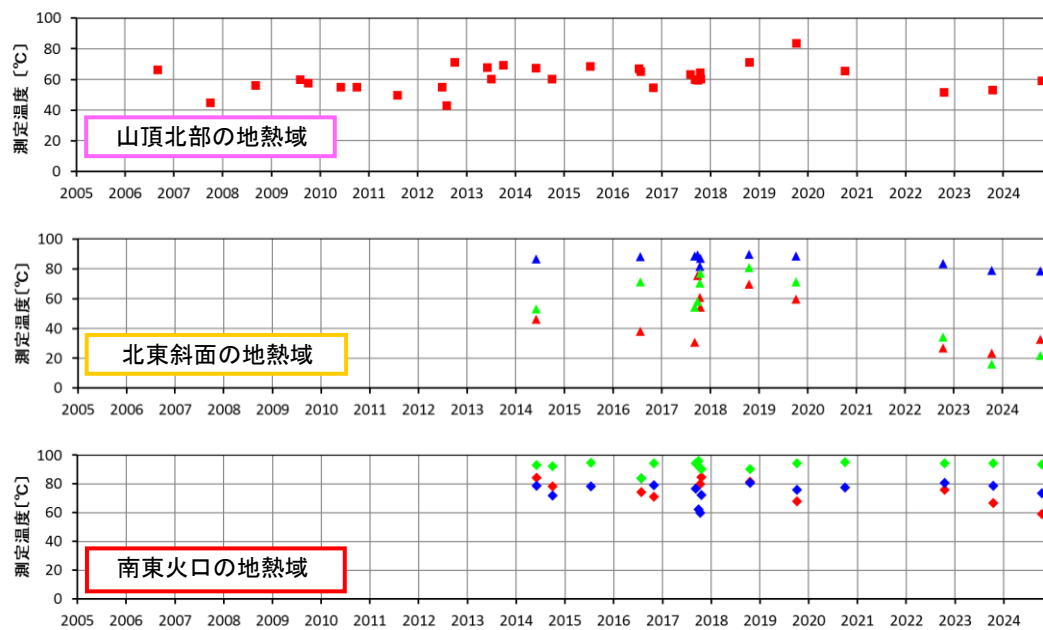


図7 女岳の地熱域における地中温度（2006年9月～2024年11月）
※測定位置は図6に対応します。

これまでと比較して地中温度に大きな変化は認められませんでした。

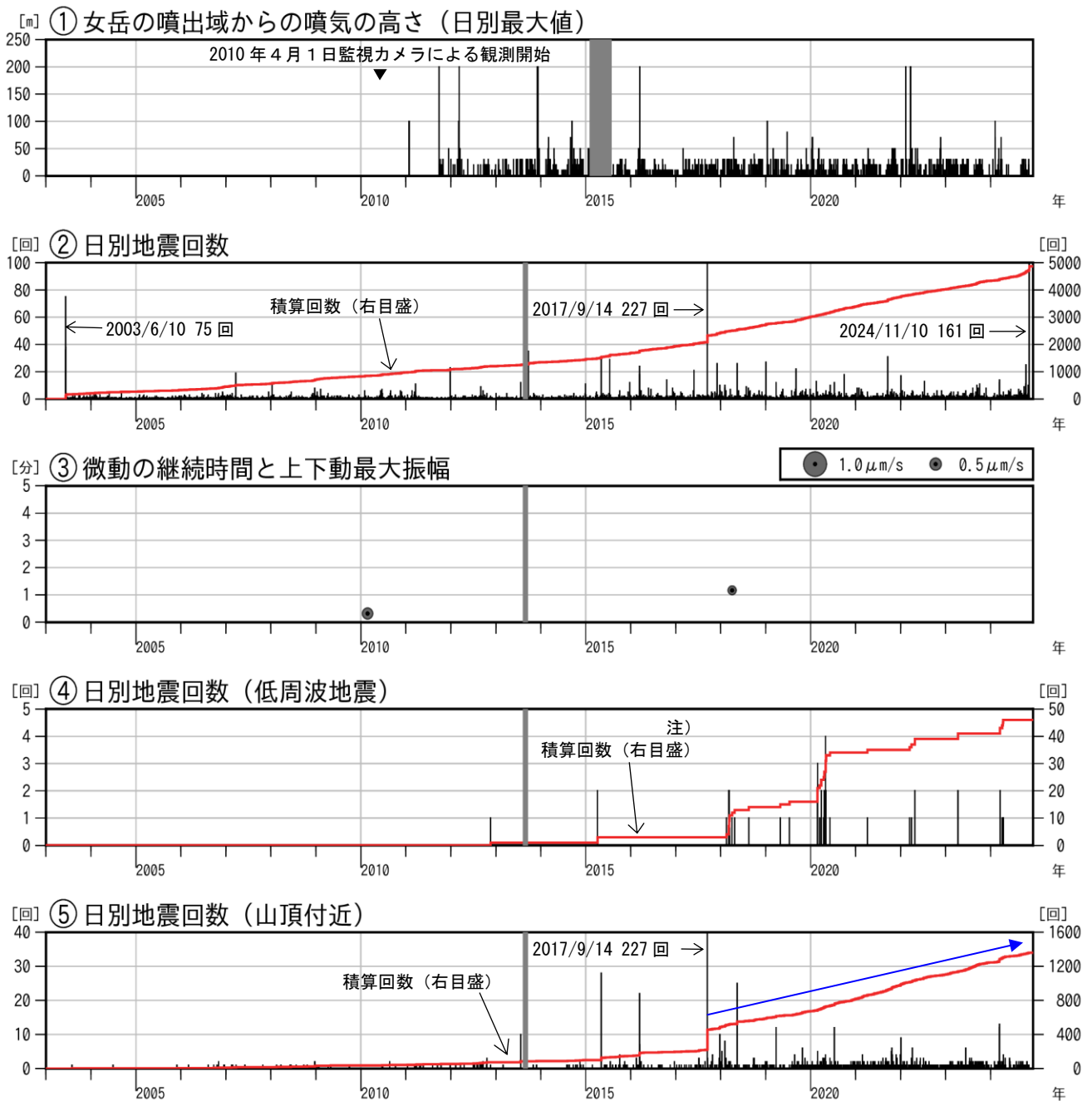


図8 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2024年11月10日）

注）姿見ノ池西観測点の運用開始（2016年12月1日）以降、検知力向上により低周波地震を判別しやすくなっていると考えられます。

- ・⑤は「山頂付近」で発生したと推定される地震の回数を示しています（「山頂付近」は「女岳付近」の回数も含みます）。2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、山頂近傍に観測点が配置されたことにより、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・図中灰色部分は欠測を表しています。

今期間、山体の北が震源と推定される火山性地震がやや多い状態で経過しました。また、11月10日（期間外）にも山体の北で火山性地震が一時的に増加し、日回数は161回（速報値）となりました。山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（⑤青矢印）。

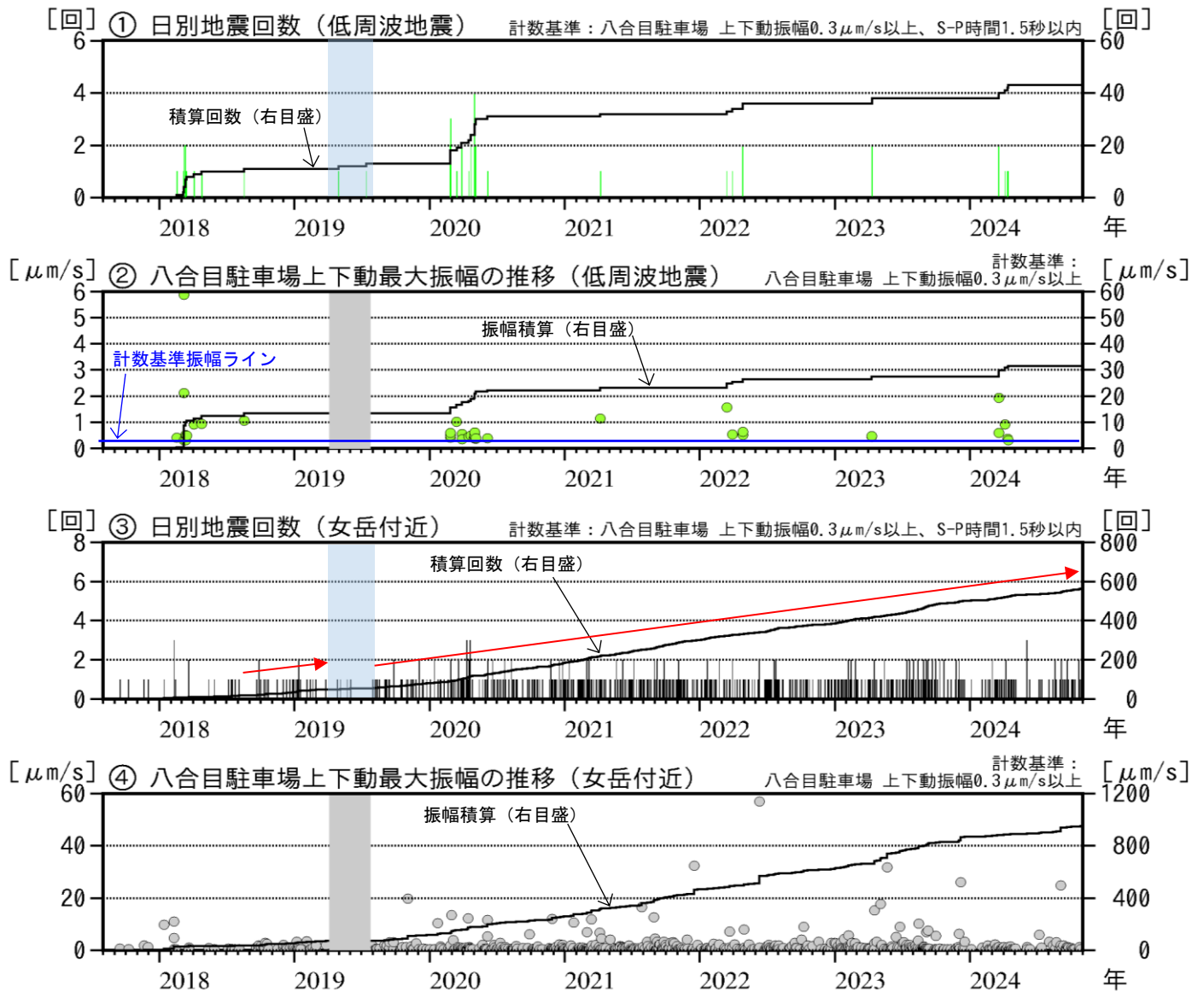
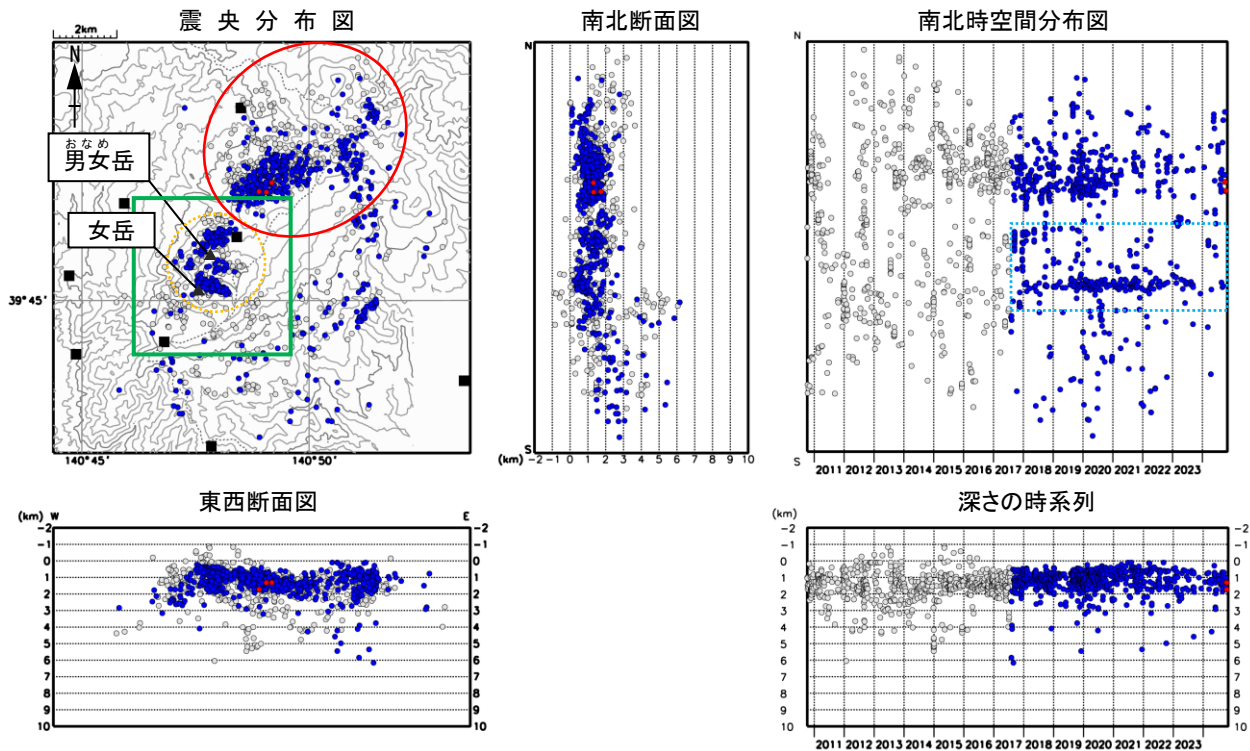


図9 秋田駒ヶ岳 低周波地震及び女岳付近の日別回数と最大振幅（2017年8月～2024年10月）

・灰色部分は八合目駐車場観測点の欠測期間を示しており、それにより地震の検知力が低下している期間を青色で示しています。

2018年9月頃から女岳付近の地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています（③赤矢印）。

秋田駒ヶ岳(広域)2010年10月7日～



秋田駒ヶ岳(山頂付近拡大)2017年8月1日～

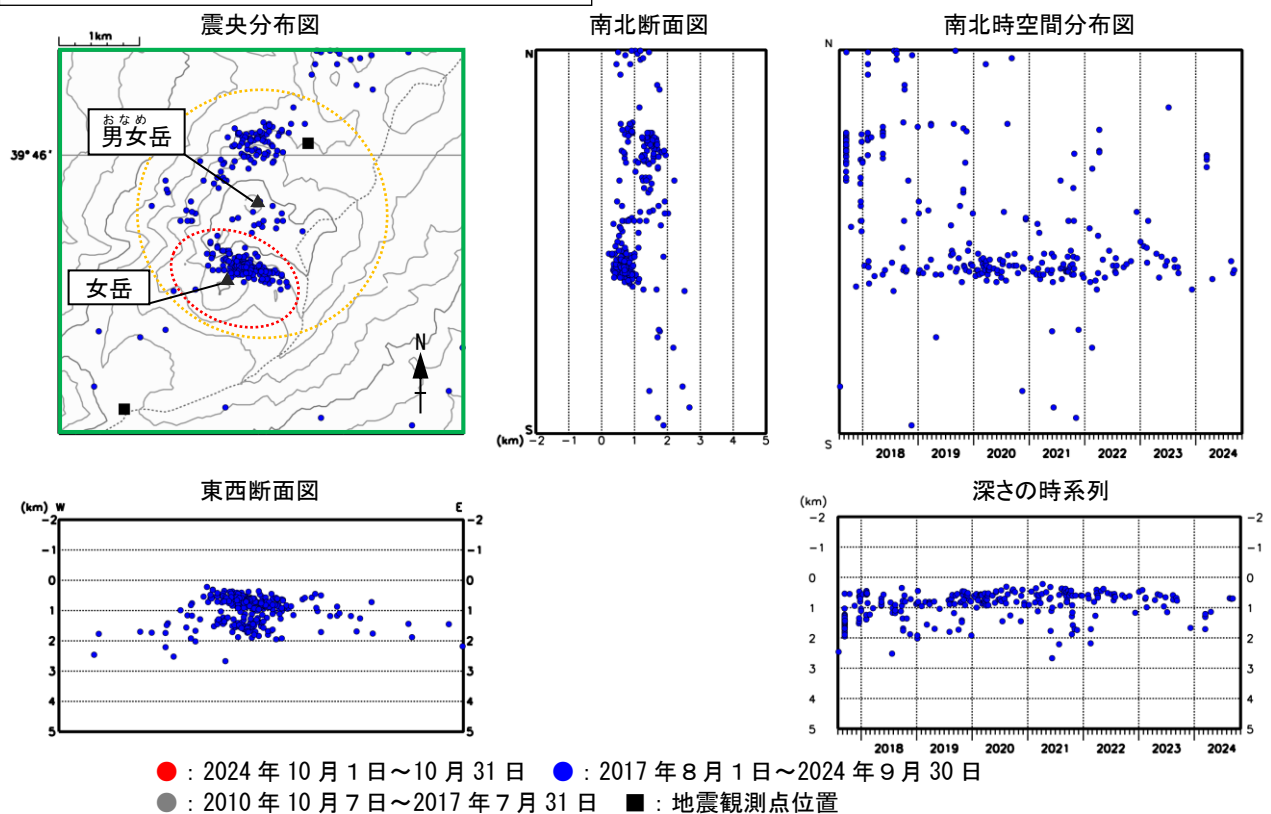


図10 秋田駒ヶ岳 地震活動（2010年10月7日～2024年10月）

- ・赤線の領域は、「山体の北」としたおおよその領域を示しています。
- ・橙破線及び赤破線の領域は、それぞれ「山頂付近」及び「女岳付近」としたおおよその領域を示しています。
- ・2017年8月1日から姿見ノ池西観測点を震源計算に使用しているため、山頂付近の震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています（水色破線）。

女岳付近が震源と推定される火山性地震は、今期間9回発生しましたが、震源が求まる火山性地震はありませんでした。

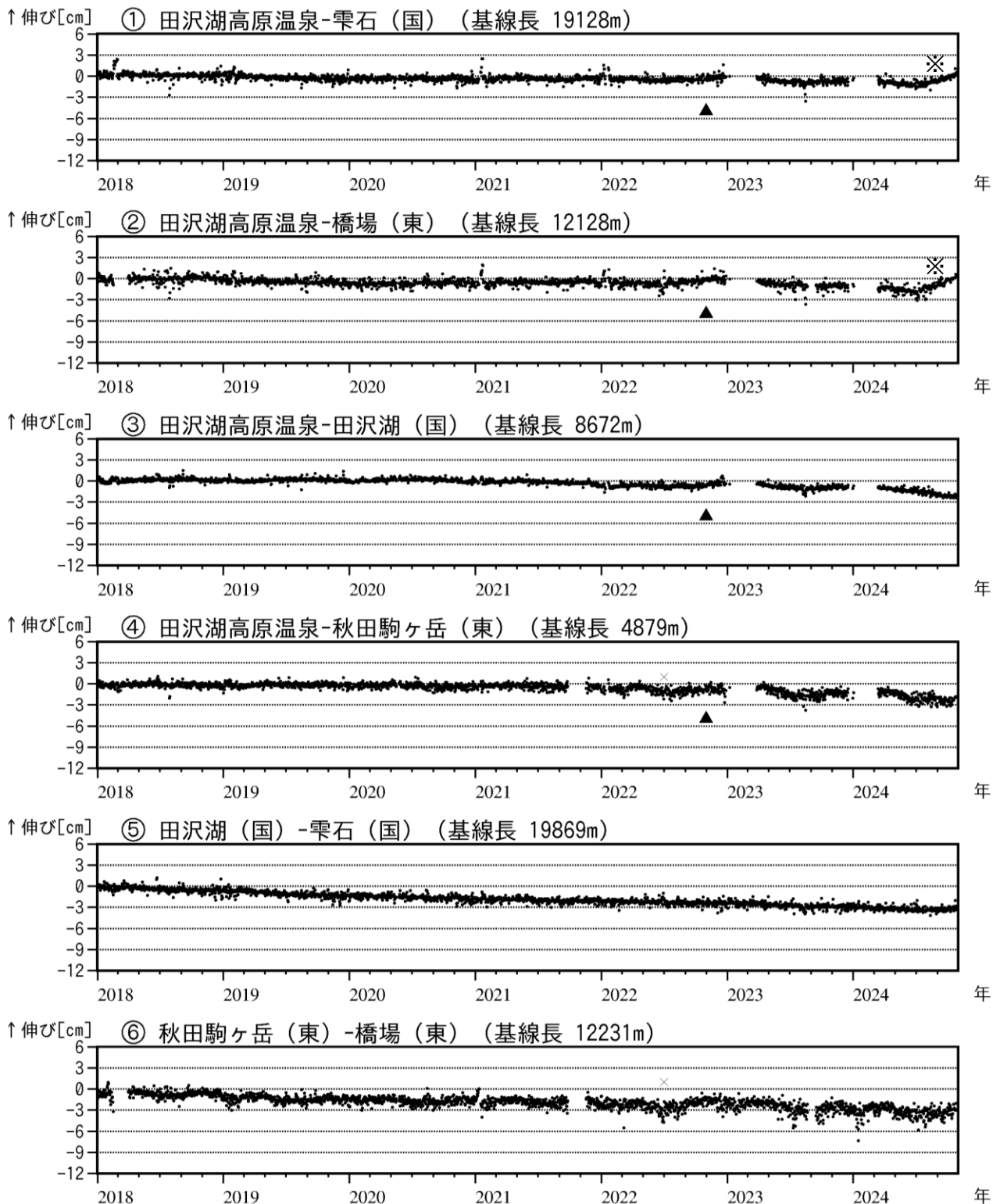


図 11 秋田駒ヶ岳 GNSS 基線長変化図（2018 年 1 月～2024 年 10 月）

- ・①～⑥は図 13 の GNSS 基線①～⑥に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。
- ▲：田沢湖高原温泉観測点の機器更新を行いました。
- ×：秋田駒ヶ岳（東）観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- ※：岩手山の火山活動に起因する変化と考えられます。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

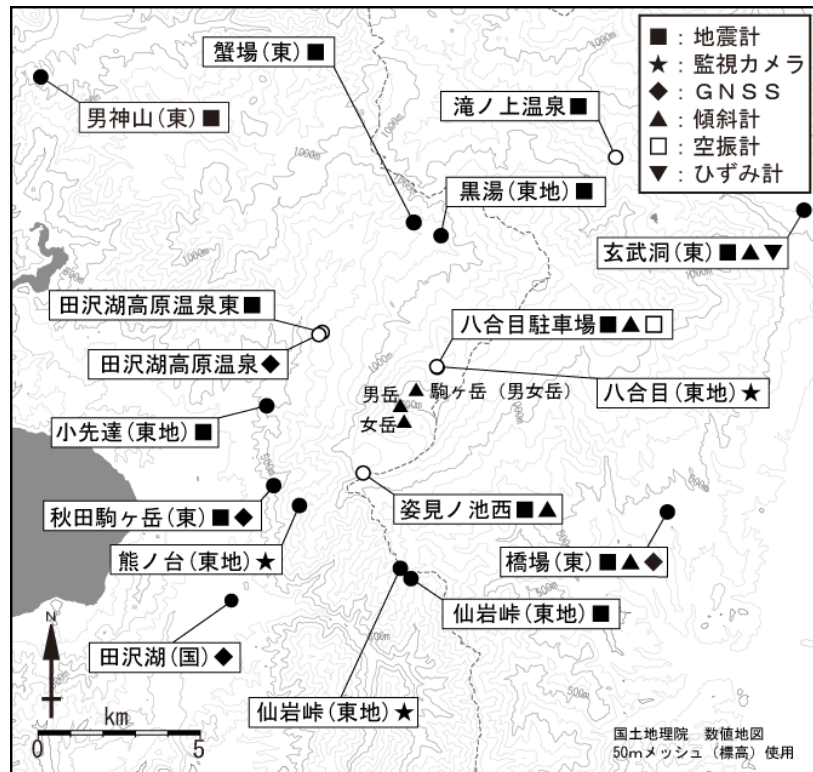


図 12 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (国) : 国土地理院
(東) : 東北大学

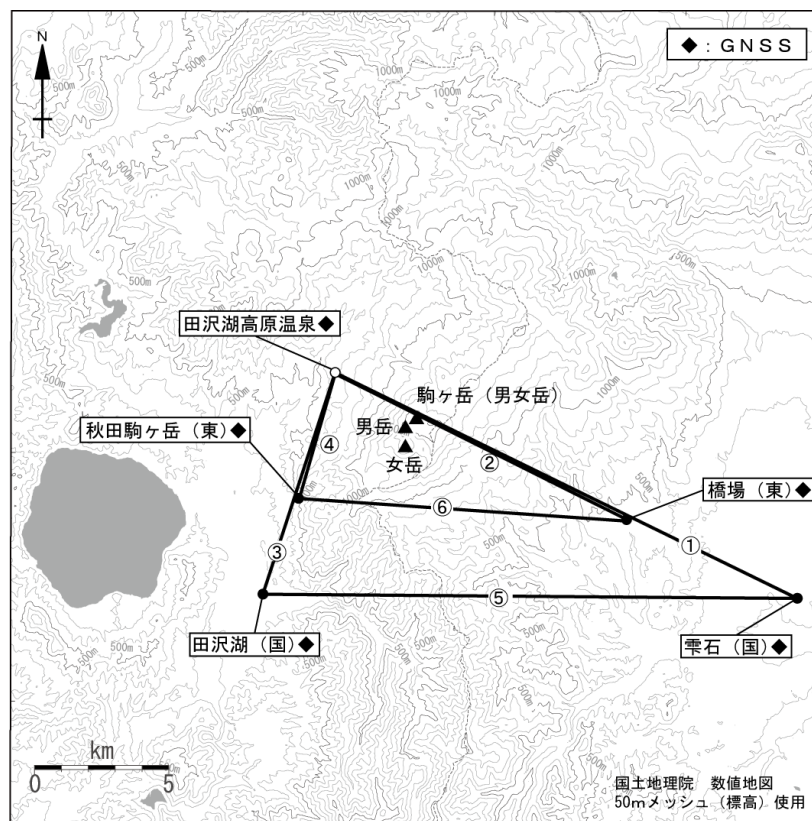


図 13 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学